

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	商工観光課
役職	観光交流係
氏名	岩崎泰依
着任日	平成 30 年 10 月 1 日

活動月	令和 3 年 7 月（着任 2 年 10 ヶ月）
主な活動	1. イベント企画・運営 2. 知覧武家屋敷コットンファーム管理・和綿の糸紡ぎ体験の受け入れ

知覧武家屋敷コットンファームの活動

和綿畑は花盛り

台風の影響での連日の強風で 20 本くらい折れてしまいましたが、梅雨の日照不足を取り戻すかのようにアマでは大きく育て花をたくさんつけています。綿の花はオクラの花によく似ているねと言われます。皆さんがオクラの花を知っているので私は初めのころこそ驚きましたがオクラの産地ならではだなと思いました。和綿が成長しているという事は雑草もすごい事になっていますが、雑草を借りながら一本一本に目をやり芯止めをしたり余分な葉を取ったり手をかけることがとても楽しいです。



今月の綿しごと

●お茶の草木染に挑戦！

以前より自分で育てた綿から製品を作って、その糸もお茶で染めてみたいと考えていました。今回お茶農家さんと染色をされている方のご協力を頂きお茶の草木染体験に参加しました。お茶を煮出して染めて媒染液につけて定着させての繰り返しを行います。その時の気温や材料、染める液の状態などの条件により様々な色の変化が見られます。この日も染料は知覧茶、媒染は奄美から取り寄せたシャリンバイ、泥、ミョウバンを使い、染め方も茶葉の状態が違うものを使用して何パターンか実験してみたところ、なんとお茶の色素から綺麗なピンクや墨グレー、黄色などに染め上がりました。同じ色は二度と出来ないのが草木染の面白いところです。いつかはきれいな青みがかった知覧茶グリーンが表現できたらいいなと思います。この日はガーゼや晒布、自分で紡いだ和綿の糸を染めました。草木染を行う場合染料になる植物はおおよそですが生であれば染める布の同量から3倍、乾燥したものであれば半量から同量必要になります。身の回りに多くの自然があり、お茶の産地だからこそ出来た贅沢な体験でした。また研究を重ねてお茶染めを確立できたらいいなと思います。



●夏のしごと、冬のしごと

コットンファームの綿しごとは電気を使わない手動の木製の道具を使います。7月に取材に来ていただき久しぶりに綿繰り機を動かしてみたところ、湿気で木が膨らんでもものすごい悲鳴のような軋み音。綿も湿気を含んできれいに身離れしてくれま

せん。紡ぎ車で糸を紡いでもなんとなくまとまらない。これらは農閑期の冬の仕事なのだ実感しました。道具も自然と先人のいとなみの贈り物、無理に抗わずゆっくりとその時に出来ることをやればいいのだと思いました。夏は機織りを少しと畑の手入れに専念します。

知覧武家屋敷三宅邸の活用・今後の課題

夏の恒例風鈴飾り

夏に武家屋敷の散策に来られたお客様が少しでも涼をとって頂きたいと思い一昨年、昨年と夏の時期に「風鈴の小径」と題して知覧武家屋敷の藤棚に風鈴を設置しました。今年は三宅邸の武家門を額縁に見立てて、入り口に竹を組んで棚を作り風鈴を飾りました。イメージ以上の出来栄で日々朝顔が成長して景色が変わるのが面白いです。このような季節季節の何気ない楽しみが武家屋敷に溶け込んでいる風景が大好きです。お客様に喜んでもらいたいという気持ちで始めた事ですが自分が一番楽しみながらおこなっています。私自身は9月いっぱい任期が終了となりますが武家屋敷コットンファームでの綿しごと体験の受け入れは三宅邸で行っていく予定ですので秋の設えはどんな感じがいいかなと考えているところです。



初めての梅仕事

今年は生まれてはじめて梅干を漬けてみました。梅雨前に塩に付けた梅を晴れ間を見計らって干しました。梅干して本当に塩と梅だけ（あと赤シソも入れました）で出来ているんだ！と当たり前のことが自分が身をもって体験して初めて実感する感覚がありました。そして今まで食べた梅干しの中で一番美味しいと感じました。買ってきたのは塩だけです。そろそろこちらは早期米のシーズン早速新米の梅干しおにぎりを持ってどこかに出かけたくなりました。

